

2022年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 本部ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2202-本 01	広報部 地球ひろば推進課	2	開発教育支援事業に関する広報業務及びその取組サポート
2202-本 02	人事部 健康管理室	1	開発途上国における邦人の疾病リスク分析、新型コロナウイルス感染症対策レビュー補佐
2202-本 03	人事部 開発協力人材室	1	人材育成事業に関する業務補助・改善提案
2202-本 04	中南米部 中米・カリブ課	2	中米・カリブ地域With/Post COVID-19禍下における強靱な社会の共創に向けた開発シナリオの検討
2202-本 05	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第三チーム	1	小規模農家向け市場志向型農業振興（SHEPアプローチ）
2202-本 06	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第五チーム	1	食と栄養分野の国際協力（特にアフリカ）に関する協力の戦略的展開とアプローチの整理
2202-本 07	社会基盤部	若干名	社会基盤部が所掌する分野（都市・地域開発、運輸・交通、資源・エネルギー）に係る調査研究機会の提供 ※こちらのポストにご応募をご希望の場合は研究計画書のアップロードをお願いいたします。
2202-本 08	地球環境部 防災グループ防災第一チーム、第二チーム	2	防災分野人材・知見の体系化
2202-本 09	調達・派遣業務部 契約第三課	2	「調達」を体験し、国際協力人材としての競争力を高めよう！ 国際協力事業に将来携わりたい人必見。JICA事業を支える「調達」業務を知ろう。（調達手続きや調達業務取りまとめの補助）

2022年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 国内機関ポスト一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2202-国 01	筑波センター 研修業務課	1	以下の課題別研修の業務補佐 ・「稲作技術向上（普及員）（A）」コース ・「マルチセクターで取り組む食を通じた栄養改善（実務者向け）」コース
2202-国 02	筑波センター 研修業務課	1	課題別研修「天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの業務補佐
2202-国 03	東京センター 人間開発・計画調整課	1	研修員受入事業の質の向上
2202-国 04	関西センター	2	関西における国内事業全般（研修員受入、市民参加、民間連携など希望に応じテーマを設定）
2202-国 05	沖縄センター 研修業務課	1	沖縄における保健医療セクター研修の成果は研修参加国においてどのように活用されるか

2022年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 開発コンサルティング企業ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2202-開コ 01	株式会社アルメックVPI	1	フィリピン国公共交通指向型(TOD)能力開発プロジェクト
2202-開コ 02	株式会社アルメックVPI	1	セルビア国ベオグラード市公共交通改善プロジェクト
2202-開コ 03	(株)コーエイリサーチ&コンサルティング	1	モザンビーク国新しい学校教育制度に対応したカリキュラム普及プロジェクト
2202-開コ 04	(株)コーエイリサーチ&コンサルティング	1	モンゴル国学校給食導入支援プロジェクト (第1期)

2022年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 本部ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2202-本 01	広報部 地球ひろば推進課	2	開発教育支援事業に関する広報業務及びその取組サポート
2202-本 02	人事部 健康管理室	1	開発途上国における邦人の疾病リスク分析、新型コロナウイルス感染症対策レビュー補佐
2202-本 03	人事部 開発協力人材室	1	人材育成事業に関する業務補助・改善提案
2202-本 04	中南米部 中米・カリブ課	2	中米・カリブ地域With/Post COVID-19禍下における強靱な社会の共創に向けた開発シナリオの検討
2202-本 05	経済開発部 農業・農村開発第一グループ第三チーム	1	小規模農家向け市場志向型農業振興（SHEPアプローチ）
2202-本 06	経済開発部 農業・農村開発第二グループ第五チーム	1	食と栄養分野の国際協力（特にアフリカ）に関する協力の戦略的展開とアプローチの整理
2202-本 07	社会基盤部	若干名	社会基盤部が所掌する分野（都市・地域開発、運輸・交通、資源・エネルギー）に係る調査研究機会の提供 ※こちらのポストにご応募をご希望の場合は研究計画書のアップロードをお願いいたします。
2202-本 08	地球環境部 防災グループ防災第一チーム、第二チーム	2	防災分野人材・知見の体系化
2202-本 09	調達・派遣業務部 契約第三課	2	「調達」を体験し、国際協力人材としての競争力を高めよう！ 国際協力事業に将来携わりたい人必見。JICA事業を支える「調達」業務を知ろう。（調達手続きや調達業務取りまとめの補助）

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-本01
■部署名：	広報部	■募集人数（人）	2
■課名：	地球ひろば推進課		
■テーマ			
開発教育支援事業に関する広報業務及びその取組サポート			
■テーマの概要			
<p>地球ひろば推進課は、JICAの国際協力の知見を活かして、学校教育を中心とする様々な場を通じて国際協力への理解と参加を促し、国際協力の担い手のすそ野拡大を推進する開発教育支援事業各種を行っています。具体的には、教育委員会、教員、児童生徒を主な対象に、日本各地のJICA国内拠点と連携しながら、SDGsの取組、多文化共生、キャリア教育、社会に開かれた教育など学校現場の課題に貢献すべく、次の事業を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員・教育委員会向け研修プログラムの実施・取りまとめ ・中高生向け国際協力エッセイコンテストの実施 ・学校教育向け教材（映像教材含む）の開発・活用促進 ・JICA地球ひろばでの展示の企画・運営、イベント・セミナーの開催 等 <p>インターンの方には、上記開発教育支援事業に参加し、効果的な発信方法（HP、SNS、動画作成含む）を検討・提案・実施する広報業務を中心に、その他関連業務のサポートも含め担当いただく予定です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>①メイン業務：開発教育に関する各種イベントへの参加、広報 以下のイベントに参加し、写真・動画撮影、取材、編集の上、効果的な広報を検討・提案・実施をお願いします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA国際協力中学生高校生エッセイコンテスト表彰式 ・開発教育指導者研修参加者（教員）の授業実践、公開研修 ・その他JICA地球ひろばイベントや開発教育オンラインイベント 等 <p>②サブ業務：JICAの開発教育支援事業に関する中高生・大学生向け資料の制作 JICA地球ひろばの実施する開発教育支援を理解の上、中高生・大学生向けに分かりやすい資料を検討・制作をお願いします。</p> <p>③サブ業務：その他開発教育に関する庶務を含む取組業務サポート 開発教育支援教材や資料整理等、庶務を含む開発教育支援事業サポートもお願います。</p>			
■参考情報			
<ul style="list-style-type: none"> ・JICA地球ひろばHP https://www.jica.go.jp/hiroba/index.html ・JICA国際協力中学生高校生エッセイコンテスト https://www.jica.go.jp/hiroba/program/apply/essay/index.html ・国際理解教育／開発教育指導者研修 https://www.jica.go.jp/hiroba/program/practice/seminar/recruit.html 			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
上記のとおり、当課で行うイベントや視察には積極的に同行いただきます。			
■受入時期・期間			
2023年1月上旬から3月末までの3ヶ月間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外も含めて調整可 理由：12月に実施されるイベントもあるため。		可	週3回, 3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）			
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・業務内容の性質上、受入期間はフルタイムではなく、週3日×3か月間を想定していますが、相談可能です。 ・東京近郊の学校訪問等の可能性があります。（日帰り。交通費は当課所有のSUICA貸出、負担します。） ・勤務日・勤務時間は可能な限り各種イベントの開催日に勤務できるように調整していただけるとありがたいです。なお、イベントは土日祝日や夜の時間帯が含まれる場合もあります。 			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方にお勧め》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-本02
■部署名：	人事部	■募集人数（人）	1
■課名：	健康管理室		
■テーマ			
開発途上国における邦人の疾病リスク分析、新型コロナウイルス感染症対策レビュー補佐			
■テーマの概要			
<p>JICA人事部健康管理室は国内外で活躍するJICA関係者の命と健康を守る部署です。海外に派遣されるJICA関係者は随伴家族を含めて年間数千人の規模であり、派遣先国での怪我や病気の件数も相当数に上るため、過去の傷病データを分析し、関係者の健康管理に役立てることが求められています。</p> <p>本インターン業務では、過去数年分の傷病データを分析し、開発途上国における邦人の疾病リスクの特徴（高リスク傷病の洗い出しや地域的な偏在の有無等）を可視化して、健康管理に役立てる知見を得るための検討をしていただきます。</p> <p>また、上記の進捗に応じて、JICAの新型コロナウイルス感染症対応についての室内レビュー補佐業務（JICAが関係者に周知した内容の洗い出し等）も予定しています。</p> <p>本件はSDGsの目標3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」と関連しており、活動の成果がそこに貢献することを期待しています。保健医療分野の専門性がなくても、データの分析を通じて、開発途上国の医療事情の傾向を理解し、健康管理支援を受ける側の立場で提言を行うことに関心があれば、従事いただけます。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・健康管理室業務に係るオリエンテーション（在外健康管理員向け研修の録画教材の視聴を含む） ・傷病データ（個人が特定できない単位に加工した治療費請求データ等）の集計・分析 Microsoft Excelを使用し、データを国別、傷病別、属性別等様々な切り口で集計分析し傾向を報告書にまとめる。 ・健康管理室内関係者との意見交換を踏まえて、効果的な健康管理に向けた提言を検討する。 ・新型コロナ対策にかかるJICAが関係者に周知した内容について、イントラネットや関係者向けサイトからの洗い出し、方針の変遷を取りまとめる。 ・インターンシップを通じて把握したJICAの健康管理業務にかかる課題や提案を室内報告する。 <p>※期間及び関心に応じ、データの分析方法や提言内容は相談できます。その他、インターンによる提案業務も相談に応じます。 ※希望があれば国際協力の現場経験を有する関係者や、開発途上国の保健医療関連プロジェクトの担当者へのヒアリングや活動のレビューをする機会を設けることもできます。</p>			
■参考情報			
<p>クロスロード2022年8月号 [特集] JICA健康管理室が監修 派遣国の病気・ケガ対策 https://www.jica.go.jp/volunteer/outline/publication/pamphlet/crossroad/202208/index.html</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
JICA内で開催される各種オンラインセミナーの聴講			
■受入時期・期間			
2023年1月 から 2月までの1~2ヶ月間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2回、 2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生・社会人ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Excelの基本操作		
望ましい	統計分析の基本的知識（分析ソフトはMicrosoft Excelのみ）		
望ましい	医療関連知識		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<p>JICA人事部健康管理室では、医師（非常勤）約 20 名、国内健康管理員（看護師）約 18 名を擁し、海外約 40 か国に派遣する在外健康管理員（看護師）約 70 名余と日々健康情報をやり取りしています。要配慮個人情報等、機微な情報に触れる部署のため、活動を通じて得られた情報に係る守秘義務を、本活動参加後も厳守願います。</p> <p>この活動で用いるデータを研究論文に用いるには、データの利用に制約がある場合がありますので、必ず事前に相談をお願いします。</p>			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-本03	
■部署名：	人事部	■募集人数（人）	1	
■課名：	開発協力人材室			
■テーマ				
人材育成事業に関する業務補助・改善提案				
■テーマの概要				
<p>人事部開発協力人材室はJICA内外の国際協力人材の確保・育成の戦略性向上を目指し、主に以下の取り組みを行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> （1）JICA内外の国際協力人材確保・育成に向けたビジョン・計画の策定 （2）各アクターに対する人育成の強化 （3）各種人材採用・確保の戦略性・効率性向上 <p>本ポストでは、上述の取り組みに資する、以下業務に携わって頂く予定です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①国際協力人材（インターン、ジュニア専門員等）のネットワーキング活性化に向けた取り組み、フォローアップ調査等 ②国際協力人材向けの研修：能力強化研修 				
■具体的なインターンシップ活動内容				
<p>インターンは、各業務の担当（開発協力人材室員）の監督のもと、以下活動を行って頂きます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. インターン、ジュニア専門員を対象としたフォローアップ調査の業務補助（調査結果取り纏め、結果の分析等） 2. インターンを対象としたワークショップの運営・企画 3. 国際協力人材向けの研修運営補助・新たな研修の提案・改善提案 <ul style="list-style-type: none"> ア) 研修運営補助（講師や運営担当職員の支援、資料準備、設営補助等） イ) 研修のアンケート作成・結果の取り纏め補助 ウ) 国際協力人材向けの新たな研修の提案・改善提案 				
■参考情報				
<p>【ジュニア専門員】 https://www.jica.go.jp/recruit/jrsenmonin/index.html 【能力強化研修】 https://www.jica.go.jp/recruit/kyokakenshu/top.html</p>				
■参加(同行)可能な行事・視察等				
■受入時期・期間				
2021年 1月上旬 から 3月下旬 までの 2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否		
上記期間内での調整可 理由：		可	週 2.3回	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）				
大学生・大学院生・社会人全て可				
■応募資格以外に受入れに関し求める要件				
必須	国際協力人材育成や研修事業に対するの関心			
■提供可能な執務環境等				
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担			
その他（提供可能な事項）：				
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安		
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。				
円/日		円/泊		
■備考・留意点				
PC操作、資料作成等の事務的作業があります。				

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-本04
■部署名：	中南米部	■募集人数（人）	2
■課名：	中米・カリブ課		
■テーマ			
中米・カリブ地域With/Post COVID-19禍下における強靱な社会の共創に向けた開発シナリオの検討			
■テーマの概要			
<p>JICAは2021年に「中米・カリブ地域 With/Post COVID-19 社会における開発協力の在り方に係る情報収集・確認調査」を実施し、同地域においてCOVID-19禍が与えた社会システムへのインパクト及び協力ニーズについて情報収集・分析を行うとともにパイロット事業も実施し、今後の開発の方向性について提言を行った。この結果として、社会・経済インフラ開発、産業開発のための民間セクター・バリューチェーン開発、グリーン・エコノミー及び気候変動対策の推進等に優先的に取り組む必要性を確認し、またデジタル・イノベーションの志向、日米間のアジェンダでもある不法移民発生の根本問題の解決に向けた取り組みについても併せ検討することが提言された。加えて、COVID-19禍下においても中米・カリブ地域と日本の地方との間で双方の地方創生に向けた取り組みが開始されており、この取り組みを深化させることでより強靱なコミュニティの形成に貢献し得る。係る状況を踏まえ実施している調査事業や中米・カリブ地域の各協力事業の中からインターン希望者に特性にあったプログラムを協働で策定し、インターン活動を進めて行く方針。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 中米・カリブ地域を中心としたJICA事業の理解促進（ブリーフィング、会議参加等） 2. 希望する特定のテーマ・セクターに関する開発シナリオの検討作業の実践（中米・カリブ課メンターとの協働） 3. キャリアプラン形成に向けたオリエンテーション及びリソースパーソンとの面談の実施 4. 会議、外勤等を通じた外部ステークホルダーとの協議への参加 5. 関連テーマに関するプレゼンテーションの実践（2回程度） 			
■参考情報			
「中米・カリブ地域 With/Post COVID-19 社会における開発協力の在り方に係る情報収集・確認調査」報告書についてJICA図書館サイトでの公開手続き中ですが、募集時に公開されていない場合は、中米・カリブ課より提供します。			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
要人面談（大使面談等）、外勤（大使館、民間企業等）、JICA国内拠点への訪問等、（状況に応じ）国内出張（地域ブランディング事例研究等）			
■受入時期・期間			
2022年1月 から3月 までの2ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週3回, 2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	スペイン語能力		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等		
<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担			
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方にお勧め》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-本05
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第一グループ第三チーム		
■テーマ			
小規模農家向け市場志向型農業振興（SHEPアプローチ）			
■テーマの概要			
<p>JICAは、従来の「作ってから売る」から「売のために作る」に農家の行動変容を促し、ビジネスとしての農業の実践を促進する「SHEPアプローチ」を活用した農業普及事業をアフリカ、南アジア、中南米等の地域で実施するとともに、同アプローチに基づく農業普及事業を実践可能な人材の育成を進めています。また、同アプローチを他ドナー、民間企業等の幅広いアクターに活用してもらうために、効果の検証と発信、事業の実践を通じて得られる知見・教訓の蓄積と共有、遠隔教育・研修システムの開発等のナレッジマネジメントに取り組んでいます。</p> <p>2019年に開催されたTICAD7のサイドイベントにおいて、SHEPアプローチを活用した農業普及を100万人の小規模農家に届け、農家の生計向上を目指す「SHEP100万人宣言」をアフリカ各国関係者、国際農業開発基金（IFAD）、日本企業関係者と共に表明し、2022年8月に開催されたTICAD8では、これまでの活動及びプロジェクトのインパクト評価の成果を共有しました。</p> <p>2023年1～2月には、途上国の行政官を対象にした課題別研修及び国際ワークショップを実施する予定です。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本インターンシップ・プログラムでは、以下の内容について、担当職員と業務の内容・進め方を相談しつつ、主体的に情報収集・資料作成等を実施いただくことになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ SHEP課題別研修の実施支援。 ・ SHEP国際ワークショップの実施支援。 ・ SHEP活用事業の分析。 ・ SHEPアプローチの広報に係るレビュー・提案、HP修正・リーフレット作成など。 			
■参考情報			
<ul style="list-style-type: none"> ・ JICA HP「SHEP（市場志向型農業振興）アプローチ」https://www.jica.go.jp/activities/issues/agricul/approach/shep/index.html 			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
SHEP専門家会合、SHEPサブタスクフォース会合（JICA内の部署横断的会合）、SHEP課題別研修（オンラインで実施予定）			
■受入時期・期間			
2022年 1月 から 2月 までの 1ヶ月間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週3回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	農業・農村開発分野を大学にて専攻していること。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 本インターンシップを通して、農業普及分野の国際協力に関する知見を深めたり、国際セミナーに参加する経験を得られます。 ・ 農業・農村開発分野に係る知識を必須とはしませんが、円滑な業務の実施のために、農業・農村開発分野を大学にて専攻していることが望ましいです。 ・ インターンシップ活動内容は上記テーマを中心としますが、当部で実施するその他関連業務の補助も含む可能性があります。 			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方にお勧め》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-本06
■部署名：	経済開発部	■募集人数（人）	1
■課名：	農業・農村開発第二グループ第五チーム		
■テーマ			
食と栄養分野の国際協力（特にアフリカ）に関する協力の戦略的展開とアプローチの整理			
■テーマの概要			
<p>アフリカでは5歳未満児の年間死亡者のうち45%が低栄養に起因していると言われる。2021年12月の東京栄養サミットなど国際場裏で栄養改善を推進するモメンタムが高まっている。JICAもその機会に「JICA栄養宣言」を発表し、改めてコミットメントを表明している。</p> <p>JICAは、2016年のTICAD VIIにおいて「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ（Initiative for Food and Nutrition Security in Africa: IFNA）」を立ち上げた。IFNAは、2025年までの10年間で、アフリカの国々において栄養改善の戦略の策定や既存の分野の垣根を越えた栄養改善実践活動の促進、普及などに取り組むことにしている。JICAは、IFNAの運営支援と栄養に関連する協力を戦略的に展開している。</p> <p>本件インターンシップは、JICA経済開発部でIFNAや食と栄養の協力を主導する第5チームにおいて、協力全体を戦略的に展開するための協力案件の全体管理の補佐、栄養改善のためのアプローチ開発に関する各種会合の企画・運営補佐、アプローチの整理などを行う。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>1. JICA経済開発部の栄養改善協力の戦略的な展開のための業務補佐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICA経済開発部の栄養分野の既存の協力案件の状況、新規案件形成に向けた本部・在外事務所、IFNA事務局などの取り組み状況を更新する。 ・ 協力全体の戦略的な展開に向けた取り組み状況表や予算や投入管理のフォーマットの更新 ・ 協力全体の月次モニタリングと翌月の対応策の整理 ・ 他の援助機関の支援状況の取りまとめ ・ 特定課題の情報収集（栄養に配慮したアプローチ等） <p>2. 食と栄養分野の協力のためのアプローチの整理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アプローチの開発・整理を担う「栄養サブタスク」会合や関連勉強会、JICA専門家との意見交換会の企画・運営 ・ 食生活を変えるための行動変容、栄養改善に向けた農業や保健、教育分野の政府機関の連携を高めるための方策などアプローチの整理 ・ 協力案件におけるアプローチの整理 <p>※食生活や営農・生活の改善に向けた動機付け、農業と保健など複数セクターの関係者の連携、各国の文脈での調整に着目</p> <p>3. 関連補助業務（栄養分野の広報、イベントの準備補助、資料作成、等）</p>			
■参考情報			
JICA Website（栄養改善）： https://www.jica.go.jp/activities/issues/nutrition/index.html			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
■受入時期・期間			
2022年1月 から3月 までの1～3ヶ月間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2回、1.5ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	栄養学、農学、農業開発に関する分野を専攻、または興味と知識を有すること		
望ましい	将来のキャリアとして、食と栄養分野における国際協力に関心があること		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
インターン場所はJICA本部経済開発部内を予定しています。勤務体系は柔軟に対応します。			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-本07
■部署名：	社会基盤部	■募集人数（人）	若干名
■課名：			
■テーマ			
社会基盤部が所掌する分野（都市・地域開発、運輸・交通、資源・エネルギー）に係る調査研究機会の提供			
■テーマの概要			
<p>社会基盤部は都市・地域開発、運輸・交通、資源・エネルギー分野の協力を所掌している。</p> <p>主な取り組みの一例として、都市・地域開発では都市開発マスタープランの策定や民間都市開発を促進する開発手法の導入。運輸交通では道路アセットマネジメントの導入や交通安全に向けた取り組み、環境負荷低減に資する公共交通システムの導入、港湾・空港整備におけるハード及びソフト面の協力。資源・エネルギーでは電力アクセス向上を図るための電力供給力と安定性の強化、気候変動対策を念頭にエネルギー利用の低・脱炭素化、省エネの支援、また持続的な資源開発・利用のための人材育成・留学受入れなどを実施している。</p> <p>テーマについては、当部の所掌に関連している限り自由。ただし、インターン自身が自らの問題意識に基づく調査研究活動を自主的かつ自立的に実施することが大前提であり、当部は関連資料の入手やアクセスへのアドバイス、実務を担う職員とのディスカッションの機会などを提供する。また、当部は、インターン希望者の研究計画書を事前に審査し、当部にて情報提供等の協力が可能と思われるものについて受入れを行う。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>社会基盤部が所掌する分野に関連した調査研究活動。インターン自らが作成し、当部の助言が反映された研究計画に従って活動する。</p> <p>JICAはインターンに対して、執務場所を提供するとともに、各種の情報提供（一例としてラオス全国橋梁データベース、カンボジア・プノンペン交通量調査結果、アフリカ港湾物流データ等）、JICA職員や専門家等へのヒアリング機会、関連する報告会やセミナーへの参加機会などを提供する。本インターンを通じて日本の国際協力に関する理解を深めて頂くことを期待します。</p>			
■参考情報			
事業・プロジェクト（JICA HP） :https://www.jica.go.jp/activities/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
学生の希望を踏まえ相談			
■受入時期・期間			
2023年1月から3月までの間での最大3ヶ月間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由：	可	週2回, 1.5ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			
<p>具体的なインターンシップ活動内容に記載のとおり、修士論文執筆に必要な調査・研究の機会を提供するものであり、テーマ設定や調査等は学生が主体的に行って頂きたいと考えていることから、本ポストへの参加を希望する場合は応募時に研究計画書（様式自由、2ページ程度（A4）。以前に作成済みの研究計画書でも可）を提出すること。</p>			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方にお勧め》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-本08
■部署名：	地球環境部	■募集人数（人）	2
■課名：	防災グループ防災第一チーム、第二チーム		
■テーマ			
防災分野人材・知見の体系化			
■テーマの概要			
<p>地球環境部防災グループでは、技術協力や資金協力を通じて途上国における防災の取り組みと防災人材の育成を支援しています。本インターン活動では、JICAの防災分野における活動の知識を深められると同時に、過去の防災協力に関する知見と防災人材ネットワークをとりまとめる業務を通じて、JICAの防災協力の基本的な考え方をご理解いただきます。具体的には、防災人材ネットワークに関しては、既存の留学生ネットワークの管理とさらなる促進、またJICAが事業を通じてつながりを持つ専門家や途上国の防災機関職員等の人材ネットワーク構築の検討を行います。また防災の知見の体系化においては、洪水、地震、気象等の防災支援分野において、インターン生の関心の高い分野を活かし、優良事例のとりまとめ、防災支援効果の検証、その他の防災知識の整理といった業務にも積極的に取り組んでいただきたいと思います。なお、JICA防災グループで実施している事業では、防災インフラの整備や重要インフラの強靱化といった構造物対策による災害リスク削減に注力しており、このような事業を推進できる人材（特に理系（土木・建築等））を必要としています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
以下の中から、インターン生の関心の高いもの、専門性を考慮して所属部署と話し合った上で詳細な活動内容が決まります。			
<p>1. 防災人材のネットワーク構築 留学生ネットワークの運営・企画（Facebook Groupの管理、留学生間のネットワーキングイベントの企画・実施、広報マテリアルの作成） 防災分野の研修生、専門家、防災カウンターパート等の人財のリスト／データベース化。 防災人材のネットワーク体系の構想・試行的な取り組みの補助。</p> <p>2. 知識の体系化 洪水、地震、気象といったの分野において、特定の国における防災強化の事案を検証、とりまとめ。 防災グループ内で蓄積された情報の整理と応用・発信（広報）に係る補助的な作業。</p>			
■参考情報			
JICAの防災分野における取り組みについて https://www.jica.go.jp/activities/issues/disaster/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
研修員受入事業の講義・研修等(オンライン含)、技術協力プロジェクト等の先方機関との打ち合わせ・案件形成時の会議などインターン期間中に実施されれば参加可能。			
■受入時期・期間			
2023年 1月 から 3月 までの 1～2ヶ月程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週3回, 2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	防災分野の事業に関心を有すること。		
望ましい	研修員等とカジュアルなコミュニケーション可能なレベルの英語力。		
望ましい	MS Excellによる分析やオンライン会議運営に精通していること。		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			
受入時期のコロナの状況によっては出勤日が限定的(週3日程度)となるかもしれません。在宅勤務時はご自身のPCから可能な業務を行っていただきます。			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-本09
■部署名：	調達・派遣業務部	■募集人数（人）	2
■課名：	契約第三課		
■テーマ			
<p>「調達」を体験し、国際協力人材としての競争力を高めよう！ 国際協力事業に将来携わりたい人必見。JICA事業を支える「調達」業務を知ろう。（調達手続きや調達業務取りまとめの補助）</p>			
■テーマの概要			
<p>我々が普段の生活をするために食べ物やサービスを購入するように、JICAは事業をするために様々なものを外部から調達しています。例えば、JICAが事業を実施したり、何らかの活動を行う際、多くの協力企業と協働したり、外部から物品等を調達しています。従い、協力企業を選んだり、必要な物品等を調達するための諸手続はJICAにとって必須の機能であるとともに、事業や活動の成否を大きく左右する要素にもなるのです。</p> <p>本プログラムでは、①調達計画、②入札（公告、入札会など）、③契約、④業務完了後の検査・経費精算などの一連の調達プロセスに係るロジスティックスを経験することにより、公共調達について理解を深めていただけます。JICA事業に携わっていきたい方も含め、国際協力分野を目指す人にとって公共調達の大原則、適正な調達プロセスを理解することは不可欠であり、JICAの調達における考え方をすることは非常に有益です。JICAは公的機関として、調達の三原則である「競争性・透明性・公平性」の維持とより効果的な手続きの両立を目指しており、一連の調達プロセスを経験した参加者からの気づきや改善点にかかる提案にも期待しています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本インターンシップ・プログラムを通じて、以下の点を中心に調達・派遣業務部の役割と機能に対する理解を深めていただけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ JICAの活動概要 ・ JICAにおける調達・派遣業務部の位置づけ、役割 ・ 公共調達とは ・ 調達・派遣業務部内の各機能 ・ 契約の手順と事業担当部との関係 <p>上記について理解を深めていただくために、各業務の担当（調達・派遣業務部職員）の支援のもと、以下の活動を行っていただく予定です。</p> <p>1. 調達手続き補助</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業担当部と調達実施方針の打合せ（入札書類の内容確認を含む） ・ 入札書類作成補助 ・ 入札会立ち合い（オンライン、電子入札等） ・ 落札業者との契約関連打ち合わせ ・ 納入物品（機材）の立ち合い検査補助 ・ 精算手続き補助 ・ 調達関連勉強会・セミナー等開催補助 <p>2. インターン結果の発表、業務改善の提言</p> <p>3. オプション（インターン生のご希望に応じ、相談のうえ決定します。以下は参考例です。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 契約手続きマニュアルの見直し補助 ・ 入札書類の見直し補助 ・ 調達業務に関する統計作成補助 ・ 調達ウェブサイトの改修補助 ・ JICA国内機関の視察 			
■参考情報			
<p>JICA調達情報 https://www.jica.go.jp/announce/index.html 国際キャリア総合情報サイト https://partner.jica.go.jp/</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
入札会等への立ち合い、納入物品（機材）の立ち合い検査への同行、JICA国内機関（首都圏）の視察			
■受入時期・期間			
2023年 1月 から 3月 までの 3ヶ月間程度		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可		16 可	週3-4回, 2-3ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	開発分野や公共調達に対する関心		
必須	事務処理能力（Microsoft Word, Excel, Power pointなどを用いた資料作成等、多くの事務作業があります）		
必須	Microsoft Teamsなどを利用したオンライン会議を行った経験		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			
<p>・ 入札・個人情報等、機微な情報に触れる部署です。活動を通じて得られた情報に係る守秘義務を、本活動参加後も厳守願います。</p> <p>・ JICAの調達は国内外での活動を支える専門家の調達に加えて、日本国内での作業を主とする各種契約（広報・人事・情報システム・建設工事・事務支援などの分野に係る調達）、海外での活動に必要な機材などの物品の調達など様々な契約がありますが、当課は後者の国内を対象とする調達業務を担っています。</p>			

2022年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 国内機関ポスト一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2202-国 01	筑波センター 研修業務課	1	以下の課題別研修の業務補佐 ・「稲作技術向上（普及員）（A）」コース ・「マルチセクターで取り組む食を通じた栄養改善（実務者向け）」コース
2202-国 02	筑波センター 研修業務課	1	課題別研修「天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの業務補佐
2202-国 03	東京センター 人間開発・計画調整課	1	研修員受入事業の質の向上
2202-国 04	関西センター	2	関西における国内事業全般（研修員受入、市民参加、民間連携など希望に応じテーマを設定）
2202-国 05	沖縄センター 研修業務課	1	沖縄における保健医療セクター研修の成果は研修参加国においてどのように活用されるか

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方にお勧め》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-国01
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	1
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
以下の課題別研修の業務補佐 ・「稲作技術向上（普及員）（A）」コース ・「マルチセクターで取り組む食を通じた栄養改善（実務者向け）」コース			
■テーマの概要			
【稲作技術向上（普及員）（A）】 稲は世界中で栽培されている主要穀物であるが、多くの開発途上国の普及組織は人的・資金的に脆弱であり、普及員の能力が農家のニーズに対応しきれていない。 このような状況から、①稲作に関する知識・技術の向上、②農家圃場レベルのニーズに即した基礎的実証試験、③普及体制の整備拡充、④農民への普及方法の改善、などへの支援が求められている。 本コースは上記の能力強化を目的として、主に途上国の稲作に携わる普及員を対象として実施される。 【マルチセクターで取り組む食を通じた栄養改善（実務者向け）】 国際社会では栄養改善への関心が高まっており、我が国は2016年の「第6回アフリカ開発会議（TICAD VI）」において「食と栄養のアフリカ・イニシアチブ（IFNA）」の発足を宣言した。その実現には、人々が必要な栄養素を含む食料の量と多様性を確保するための農業・農村開発の取組が重要である。本コースは、主に食を通じた栄養改善に取り組むアフリカ地域の地方行政官を対象に、栄養改善プログラムを実行する能力強化を目的に実施される。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
本インターンシップでは上記のコースに参加し、JICA、研修業務委託先と協力して研修実施の補助を行って頂きます。詳細な活動はインターン決定後に設定します。なお、現時点では両コースともに来日型の研修を想定しています。			
具体的な活動例は以下のとおりです。 1. 研修計画に沿った資料作成等の補助業務。 2. 研修コースの運営等に関する分析・提案 3. 実習・講義準備や研修員とのコミュニケーションを含む研修運営補佐。 4. 研修員が抱える課題とその解決策の聞き取り。 5. 本コースの広報活動補助（Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事） 6. その他、研修業務課の業務補助等。			
■参考情報			
■参加（同行）可能な行事・視察等			
同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。			
■受入時期・期間			
2023年 1 月 から 3 月までの 2週間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可		可	週2回、 2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での研究を行っている、または行う予定のある方。		
必須	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点以上）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）			
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000 円/日		5,300 円/泊	
■備考・留意点			
圃場や実習施設での実験・実習にあたっては、作業しやすく汚れてもよい服装と靴が必要です。JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合、5,300円/泊でご利用いただけます。受入時期・期間は、インターン生と相談の上、1月から3月までの間で柔軟に設定いたします。			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

《理系の方にお勧め》

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-国02
■部署名：	筑波センター	■募集人数（人）	1
■課名：	研修業務課		
■テーマ			
課題別研修「天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースの業務補佐			
■テーマの概要			
<p>多くの開発途上国において、農業セクターは、総労働人口の過半を占める就労人口を抱える主要な産業です。コメは多くの開発途上国で栽培・消費されている主要穀物の一つであり、この生産量向上を食料安全保障の課題に掲げる国も少なくありません。しかしながら、コメの生産拡大に向けて、生産面積は拡大しているものの、依然として生産性は低い数値です。発展途上国、とりわけアフリカでは天水稲作における十分な知識と経験を持った研究普及人材が不足しており、人材の育成が喫緊の課題となっています。このような状況から、「天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースは、筑波センターで保有する農業研修施設・圃場等を活用し、アフリカ稲（ネリカ）、インド型稲を中心に①稲の栽培・種子生産・品種選定技術に関する現状と課題、②稲栽培の基本技術、③稲の種子生産・種子保存に関する基本技術、④稲の品種選定に関する基本技術、⑤コメの収穫後処理及び流通システムについて、講義、実習、視察等を通じて、研究普及に必要な知識と能力の向上を目指しています。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>本インターンシップでは「天水稲作のための稲栽培・種子生産及び品種選定技術」コースに参加し、JICA、研修業務委託先と協力して研修実施の補助を行って頂きます。詳細な活動はインターン決定後に設定します。なお、本コース研修員の来日予定は現時点で未定であり、来日できなかった場合には遠隔での研修の業務補佐を行って頂きます。</p> <p>具体的な活動例は以下のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 研修計画に沿った資料作成等の補助業務。 2. 実習・講義準備や研修員とのコミュニケーションを含む研修運営補佐。 3. 研修員が抱える課題とその解決策の聞き取り。 4. 圃場で実施する実験・試験（施肥や栽植密度、品種の比較実験）の研修員に対するサポート。 5. 本コースの広報活動補助（Facebook記事、JICA筑波ウェブサイト記事） 6. その他、研修業務課の業務補助等。 			
■参考情報			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
同時期にJICA筑波が実施する一般来訪者向けイベントや他研修の報告会等イベントへの参加。			
■受入時期・期間			
2023年 1 月 から 3 月までの 3ヶ月間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可		可	週2回、 2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
望ましい	当該分野での研究を行っている、または行う予定のある方。		
必須	日常会話レベルの語学力（英語）（TOEIC550点以上）		
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等		
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000 円/日		5,300 円/泊	
■備考・留意点			
<p>圃場や実習施設での実験・実習にあたっては、作業しやすく汚れてもよい服装と靴が必要です。JICA筑波の宿泊施設に空きがある場合、5,300円/泊でご利用いただけます。</p> <p>受入時期・期間は、インターン生と相談の上、1月から3月までの間で柔軟に設定いたします。</p>			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-国03	
■部署名：	東京センター	■募集人数（人）	1	
■課名：	人間開発・計画調整課			
■テーマ				
研修員受入事業の質の向上				
■テーマの概要				
<p>東京センターは設立以来、JICAの国内最大規模の研修実施機関として、開発途上国の抱える様々な課題に対応するため、日本国内の関係機関の協力を得て、多種多様な研修メニューを開発途上国の方々に提供しています。研修は共に学び新たな価値を創造する「共創」の考え方に基づき、講義、視察、実習、プレゼンテーション、意見交換などを通じて開発途上国からの研修員が国内外の講師と共に、学びを深め新たな気付きを得る場となっています。東京センターでは、こうした研修プログラムの企画・実施から実施後の振り返りまで、研修の一連の事業を行っています。2021年度はコロナ禍で来日研修の実施が叶わず遠隔研修を実施しましたが、2022年度は遠隔研修に加えて来日研修も実施しています。</p> <p>人間開発・計画調整課では、主に保健医療、社会保障、教育分野の研修事業を行っています。また、研修事業に係る横断的取りまとめ業務も行っており、開発途上国の人材育成のニーズに合致した、より良い研修事業の内容・実施方法を検討し、研修の質の向上を目指しています。インターンシップでは、こうした分野以外（経済開発、環境、司法等）に触れる機会もあります。</p>				
■具体的なインターンシップ活動内容				
<p>1. 研修員受入事業の業務補佐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修員受入の事前準備・運営業務補佐および研修事業に係る広報記事作成 ・研修員（帰国研修員を含む）に対するインタビュー実施を通じた研修事業の質の向上に係る考察およびレポート作成 <p>2. 研修員への支援補佐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修員向け福利厚生イベントへの同席を通じた研修員への支援補佐（おもてなしを含む）、同イベントに関する広報記事作成 ・研修員への支援（おもてなしを含む）に関する調査実施およびレポート作成 <p>3. 研修員受入事業と市民参加協力事業の連携補佐</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修員受入事業と市民参加協力事業の連携に関する業務補佐 ・研修員受入事業と市民参加協力事業の連携に関する考察およびレポート作成 				
■参考情報				
<p>JICA東京ホームページ：https://www.jica.go.jp/tokyo/index.html</p> <p>研修員受入事業：https://www.jica.go.jp/activities/schemes/tr_japan/summary.html</p>				
■参加（同行）可能な行事・視察等				
インターン期間中に実施する課題別研修・国別研修、研修員向け福利厚生イベント（日本文化紹介、市民との交流等）等				
■受入時期・期間				
2023年1月上旬から3月上旬までの2ヶ月間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否		
上記期間内での調整可	理由：	可	週2回、2ヶ月間程度	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）				
大学生・大学院生・社会人全て可				
■応募資格以外に受入れに関し求める要件				
必須	語学力（英語での意見交換に支障ないレベル（TOEIC730点以上が目安））			
■提供可能な執務環境等				
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担			
その他（提供可能な事項）：				
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安		
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。				
		円/泊		
■備考・留意点				
具体的なインターンシップ内容は上記1～3を想定していますが、レポートにまとめてみたい研修関連の特定テーマのアイデアがある場合には、応募申請書に提案を記載して下さい。				

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-国04
■部署名：	関西センター	■募集人数（人）	2
■課名：			
■テーマ			
関西における国内事業全般（研修員受入、市民参加、民間連携など希望に応じテーマを設定）			
■テーマの概要			
<p>JICA関西は、関西の2府4県（大阪府、京都府、兵庫県、滋賀県、奈良県、和歌山県）のJICAの拠点として、関西の皆さんとともに国際協力事業を展開しています。開発途上国のリーダーを育成する研修員受入事業、自治体・大学・NGO/NPOなどの皆さんの知見や経験を活かす国際協力活動支援（草の根技術協力）、出前講座などの開発教育、企業のすぐれた技術やサービスを開発途上国の発展に活かす民間連携事業など、幅広い事業を実施しています。また最近の動きとして、多文化共生・外国人材受入支援や、関西SDGsプラットフォームを通じた関西でのSDGs推進の取り組みを行っています。</p> <p>本インターンでは、JICA関西が行うJICA事業、そして日本でできる国際協力事業について理解することを目的とします。インターンのテーマは、JICA関西で実施する事業の中から、インターン学生の研究分野・興味関心と各事業の年間スケジュールを考慮の上、決定します。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 途上国からの短期技術研修員受け入れ ・ 途上国からの留学生受け入れ、日本文化理解プログラムの実施 ・ 自治体・大学・民間企業による国際協力への参画支援 ・ 一般市民や青少年が国際協力への理解を深めるための啓発事業 ・ 大学・高校・小学校との連携による開発教育支援事業 ・ NGO 支援事業 ・ 多文化共生・外国人受入支援 ・ SDGs推進 ・ イベント開催を含む広報事業等 <p>※各事業詳細はJICA 関西のHPを参照のこと。</p>			
■参考情報			
JICA関西ホームページ 更新情報 https://www.jica.go.jp/kansai/new.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
長期研修員合宿（2023年3月予定） HAT神戸連携防災イベント「イザ!美かえる大キャラバン！」（2023年1月末予定）			
■受入時期・期間			
2023年1月末 から 3月末 までの 2ヶ月間/週間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可 理由：		可	週2～3回, 2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学院生・社会人ともに可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件			
必須	Microsoft Excelの操作経験		
望ましい	日常会話レベルの英語能力（TOEIC600点程度）		
望ましい			
■提供可能な執務環境等			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他（提供可能な事項）： 外勤時の交通費（ICOCA貸出）			
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。			
2,000円/日		5,300円/泊	
■備考・留意点			
空室があればJICA関西に宿泊可能です（1泊5,300円・朝ごはん付）			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム

受入担当部署/国内機関		登録番号	2202-国05	
■部署名：	沖縄センター	■募集人数（人）	1	
■課名：	研修業務課			
■テーマ				
沖縄における保健医療セクター研修の成果は研修参加国においてどのように活用されるか				
■テーマの概要				
<p>JICA沖縄では、開発途上国の行政官・医療従事者を沖縄に招き、沖縄の公衆衛生活動による感染症対策および母子保健強化に関する講義・視察などの研修コースを実施している。これらの研修は、第二次世界大戦で、人材・資機材・資金のほぼすべてを失った沖縄が、独自の取り組みにより公衆衛生面の復興を遂げた経験や現在の保健医療の取り組みを、開発途上国の健康推進に活用すべく企画・実施されているもので、年間6～8コースに、世界各地から70人ほどの研修員が参加している。</p> <p>研修は、株式会社ティーエーネットワークが、琉球大学の技術的支援を得て実施し、研修員と呼ばれる参加者は講義、視察、ディスカッション等を通して学び、自国で応用・実施可能な活動を考察する。</p> <p>インターンシップ参加者は、インターネットを活用する「遠隔研修」と沖縄で実施する「来日研修」（2023年1月23日～2月3日）で構成されるハイブリッド研修のうち「来日研修」（に参加し、学生の視点で研修参加国における研修成果活用の可能性を検討する。</p>				
■具体的なインターンシップ活動内容				
<p>本インターンシップは、大学・大学院生（保健または看護分野を専攻していることが望ましいが必須ではない）を対象とし、「地域保健システム強化による感染症対策」の来日研修に参加することにより、以下の内容に取り組む。</p> <p>①研修員が作成したジョブ（自国の課題分析）レポートや研修員との対話から、研修参加国の感染症対策における課題を理解する</p> <p>②研修員と共に研修に参加し、学生の視点から「研修内容が研修参加国の課題解決にどのように活用可能か」をレポートにまとめる</p> <p>③JICA沖縄で実施している他の事業（民間連携、草の根技術協力）を理解し、本研修とのコラボレーションの可能性を考察してレポートにまとめる</p>				
■参考情報				
<p>株式会社ティーエーネットワーク（http://www.ta-n.com/index.html）</p> <p>琉球大学（https://www.u-ryukyu.ac.jp/）</p> <p>琉球大学医学部保健学科国際地域保健学教室（https://okinawaghealth.com/）</p>				
■参加（同行）可能な行事・視察等				
「地域保健システム強化による感染症対策」の来日研修で実施するすべての講義と視察（沖縄本島および離島を訪問予定）				
■受入時期・期間				
2023年1月20日前後～2月4日の 2週間程度		フルタイム以外の活動体系の可否		
調整不可	理由：1/23-2/3までの研修への参加が必須であるため	不可	週 回、	ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）				
大学院生				
■応募資格以外に受入れに関し求める要件				
望ましい	学部で医療系もしくは開発系などのコースを専攻していること。			
必須	研修は英語で実施されるため、英文の読み書きおよび意思疎通ができること。			
■提供可能な執務環境等				
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担			
その他（提供可能な事項）： 研修同行時の交通手段				
■滞在費目安（一日あたりの食費及び少額交通費）			■宿泊費目安	
※目安金額であり、JICAから支給されるものではありません。				
センターで昼食・夕食をとる場合 1,600円/日			センター泊の場合 5300円/泊（朝食込）	
■備考・留意点				
<ul style="list-style-type: none"> ・研修受入期間の部分的参加ではなく、全期間に参加すること。 ・研修内外において、研修に参加している研修員と積極的に交流すること。外国籍の参加も可としますが、日本語の読み書きおよび意思疎通ができること。 ・滞在費目安の内訳は昼食代800円、夕食代800円（少額交通費は、研修同行時は研修員と同じJICAバスに乗ることを想定し、かつJICA沖縄宿泊を想定し0円）。宿泊費目安はJICA沖縄宿泊（朝食代込み）の金額。 				

2022年度第二回 JICAインターンシップ・プログラム 開発コンサルティング企業ポスター一覧

登録番号	担当部署	募集人数	テーマ
2202-開コ 01	株式会社アルメックVPI	1	フィリピン国公共交通指向型(TOD)能力開発プロジェクト
2202-開コ 02	株式会社アルメックVPI	1	セルビア国ベオグラード市公共交通改善プロジェクト
2202-開コ 03	(株)コーエイリサーチ&コンサルティング	1	モザンビーク国新しい学校教育制度に対応したカリキュラム普及プロジェクト
2202-開コ 04	(株)コーエイリサーチ&コンサルティング	1	モンゴル国学校給食導入支援プロジェクト (第1期)

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方にお勧め》

受入先企業		登録番号	2202-開コ01
■企業名：	株式会社アルメックVPI	募集人数（人）	1
■プロジェクト名		■スキーム名	
フィリピン国公共交通指向型(TOD)能力開発プロジェクト		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
<p>マニラ首都圏では、マニラ首都圏地下鉄（MMSP）及び南北通勤線（NSCR）を含む計画・設計・建設が進められている。また、マニラ首都圏では3路線の都市鉄道が運行されているが、交通と一体的な都市開発は進められていない。MMSP及びNSCR建設事業を契機として、フィリピン政府や民間企業のTODへの関心は高まっているものの、TODの概念を踏まえた計画策定や都市開発事業の経験は無く、関係機関で共有できるTOD政策や調整メカニズムは存在しない。</p> <p>本技術協力プロジェクトでは、MMSP及びNSCR沿線に開発用地を保有する基地転換開発公社（BCDA）を実施機関として、BCDA用地に含まれる地下鉄沿線及び駅周辺地区のTODコンセプトプラン、及び開発事業を想定する街区のTOD事業計画の作成を支援する。これらのコンセプトプラン・事業計画策定や事業化促進に向けた活動の過程で得られた教訓をもとに、マニラ首都圏及び比国で適用可能なTODガイドラインを作成し、関係機関協調の枠組みを構築する。こうした活動を通じて、BCDA及び関係機関によるTODの計画・実施能力の向上を図ることをプロジェクト目標としている。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>現地渡航がないために、会議資料作成や報告書作成時の情報収集やデータ分析などの国内業務のサポートが中心になります。また、現地で開催される会議へのリモート参加や、団内会議などにも参加して貰い、コンサルタント業務がどのようなものなのか知って貰えたらと思います。</p>			
■プロジェクトの参考情報			
ありません			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
リモート会議への参加			
■受入時期・期間（併せて、調整可か不可かをプルダウンで選択してください。）			
2023年 1月 から 3月 までの 1ヶ月間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		1ヶ月間程度	
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。）			
■提供可能な執務環境等（該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
<p>滞在費及び宿泊地については、今回海外及び国内出張の予定は無いので未記入としています。 勤務地は東京（最寄り駅：新宿三丁目駅/新宿御苑駅）。</p>			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方にお勧め》

受入先企業		登録番号	2202-開コ02
■企業名：	株式会社アルメックVPI	募集人数（人）	1
■プロジェクト名		■スキーム名	
セルビア国ベオグラード市公共交通改善プロジェクト		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
ベオグラード市は都市開発とそれに伴う市街地の拡大により、新ベオグラード及びゼムン地区の発展が著しい。欧州開発銀行の支援で実施された都市交通マスタープランであるSmart Plan 2017によると、今後も都市部を中心に2033年までに1割強の成長が予測されている。市内の公共交通は市バス、トラム、トロリーバスがあり、市統計によると公共交通は市内のトリップ需要の約50%を占め、バス、トロリーバス、トラム利用者合計は年間8億2,600万人である。このうち、トラムが2%、トロリーバスが1.3%、鉄道が0.4%に対し、バスの利用者は44%を占め、市内の公共交通においてバスが重要な役割を果たしている。Smart Planでは公共交通機関の管理面に関する検討までは十分に行われておらず、公共交通のサービス改善やTODの計画などが必要であるとの見解を示している。本調査は持続可能な環境配慮型公共交通システムが構築されることを上位目標に、需要に応じた公共交通サービスの提供及び運賃収受の改善が行われることを目標に実施している。			
■具体的なインターンシップ活動内容			
現地渡航がないために、会議資料作成や報告書作成時の情報収集やデータ分析などの国内業務のサポートが中心になります。また、現地で開催される会議へのリモート参加や、社内会議などにも参加して貰い、コンサルタント業務がどのようなものなのか知って貰えたらと思います。セルビア案件での受け入れですが、ほぼ同時並行しているボスニア・ヘルツェゴヴィナ国サラエボ県公共交通管理及び運営能力強化計画策定プロジェクトの業務についても同様に触れてもらう機会を設けることを考えています。			
■プロジェクトの参考情報			
ベオグラード市公共交通改善プロジェクト： https://www.jica.go.jp/project/serbia/006/index.html サラエボ県公共交通管理及び運営能力強化計画策定プロジェクト： https://www.jica.go.jp/project/bosnia_h/003/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
リモート会議への参加など			
■受入時期・期間（併せて、調整可か不可かをプルダウンで選択してください。）			
2022年08月 から 12月 までの 1ヶ月間程度（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可 理由：		可	週3回、1ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。）			
■提供可能な執務環境等（該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input type="checkbox"/> PC貸出し	<input checked="" type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担	<input checked="" type="checkbox"/> 関連情報・資料の提供等	
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
円/日		円/泊	
■備考・留意点			
滞在費及び宿泊地については、今回海外及び国内出張の予定は無いので未記入としています。勤務地は東京（最寄り駅：新宿三丁目駅/新宿御苑駅）。			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

《理系の方にお勧め》

受入先企業		登録番号	2202-開コ03
■企業名:	(株)コーエイリサーチ&コンサルティング	募集人数(人)	1
■プロジェクト名		■スキーム名	
モザンビーク国新しい学校教育制度に対応したカリキュラム普及プロジェクト		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
<p>モザンビークでは全国学力調査(2016年)で規定の学力水準を満たす小学3年生が「読み書き」分野で4.9%、「計算」分野で7.7%であるなど、子どもの学びの改善が喫緊の課題です。また、2023年には学校教育制度が6-3-3制に移行する予定であり、新しい制度に基づく初等算数・理科の教育課程の整備・実現が急務です。</p> <p>かかる中、JICAは2006年から教員の能力強化に係る協力を実施してきました。技術協力プロジェクト「初等教員養成校における新カリキュラム普及プロジェクト」(2016-2020)で開発した教材により、特に十分な使用期間を確保できた算数では、初等教員養成校の教官の指導力向上に顕著な成果が現れ、同国教育人間開発省(以下、「教育省」)から高い評価を受けました。</p> <p>このような背景のもと、2021年4月、初等算数・理科の国定カリキュラム・教科書等の整備と、整備された教科書等の活用による授業の改善を通じて、小学1~6年生児童の学力向上を目指す本プロジェクトが開始されました。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>・算数教科書・教師用指導書(小学1・4年生)と理科教科書・教師用指導書(小学4年生)の改訂支援</p> <p>日本人プロジェクト関係者(以下、「専門家」)の助言のもと、モザンビーク教育省関係者が算数・理科の教科書と教師用指導書をポルトガル語で執筆しています。本インターンには、これら教材の内容の確認・フィードバックを支援いただく予定です。具体的には、以下の活動を考えています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ポルトガル語原稿をオンライン翻訳ツールで英訳し、日本人専門家に送付して確認を依頼 2) (インターンご自身による) 同原稿の確認 3) 日本人専門家の会議に出席し、コメントを集約 4) モザンビーク側執筆者との会議への出席 5) モザンビーク側執筆者による修正版原稿の確認 (→ 1)に戻る) <p>算数は特に教科書・教師用指導書に掲載する解答の確認をお願いする予定です。理科は、テキストだけでなく図表の確認もお願いする予定です。</p>			
■プロジェクトの参考情報			
https://www.jica.go.jp/project/mozambique/013/index.html			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
鳴門教育大学関係者によるオンライン研修の視聴(2023年2月末から1週間の予定)			
■受入時期・期間(併せて、調整可か不可かをプルダウンで選択してください。)			
2023年1月から3月までの3ヶ月間程度(2週間からの受入も可とする)		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間内での調整可	理由:	可	週2-3回、3ヶ月間程度
■希望する人材(大学生/大学院生/社会人)			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件(「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。)			
必須	上記業務に支障がない英語力(リーディング・ライティング)		
■提供可能な執務環境等(該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。)			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input checked="" type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他(提供可能な事項): 携帯電話は業務に基づく必要性に応じて貸与を検討します			
■滞在費(一日あたりの食費及び少額交通費)		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
		円/日	円/泊
■備考・留意点			
<p>本ポストは、主に株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング(東京)での活動を予定しております。</p> <p>本インターンが改訂を支援する教科書はモザンビーク全国に配布され、全国の児童と教員が使用します。大きなやりがいがある反面、記載内容の間違いや単純ミスがないよう細心の注意を払う必要があります。</p>			

2022年度第二回JICAインターンシップ・プログラム
開発コンサルティング企業受入

受入先企業		登録番号	2202-開コ04
■企業名：	株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング	募集人数（人）	1
■プロジェクト名		■スキーム名	
モンゴル国学校給食導入支援プロジェクト（第1期）		技術協力プロジェクト	
■プロジェクト概要			
<p>モンゴル国の子供の栄養状況は低栄養・過栄養が混在した状況となっていることから、栄養バランスを確保した食事の提供が課題のひとつとなっている。モンゴル教育・科学省は、2006年度に軽食実施規則を策定し、全小学校の生徒を対象に学校軽食の提供を開始し、さらに2019年に学校給食法を制定、2020年に施行した。同法では、すべての小学校に給食を提供するために標準や技術規制に沿った施設、設備、人材を適切に整備・配置することが定められており、2022年に中学校、2023年に高校での給食提供を予定している。このような背景のもと、本プロジェクトは初中等学校で栄養バランスのとれた給食を安全に提供できる環境を整備することを目的とし、2021年10月～2025年10月の予定で実施中である。プロジェクトでは、1) 短期コースによる栄養士育成支援、2) 栄養摂取基準と献立の改訂、3) 地域特性に基づいた食材供給体制の整備、4) 関係省庁の行政機能強化を実施している。</p>			
■具体的なインターンシップ活動内容			
<p>JICAモンゴル学校給食プロジェクトでは、2023年2月上旬から下旬にかけて、食材調達関連の約2週間の第2回本邦研修を実施予定である。この研修では茨城県つくば市にて、県学校給食会や教育委員会、食材納入企業等での講義や視察を行う。インターンシップ生には、本邦研修の準備（物品購入、データ入力、書類作成）や実施支援（関係機関への連絡調整の支援や面談メモの作成等）、精算作業の支援を行っていただくことを想定している。また、本案件は第1期が2023年4月に終了するため、その精算準備支援（データ入力、証憑確認）も予定している。</p> <p>本邦研修は国内において海外の政府関係者らと関わるができる貴重な機会であり、本インターンシップを通じて、モンゴルの学校給食における課題や、日本の参考事例等も学ぶことができる魅力的な機会であると考えられる。受け入れ側としても、インターンシップ生により多くのことを学んでいただけるよう、指導したいと考えている。</p>			
■プロジェクトの参考情報			
<p><Voice of Mongolia (2021年5月17日)> http://www.vom.mn/ja/p/46360</p> <p><つくば市教育委員会 (2022年7月11日)> https://www.tsukuba.ed.jp/2022/07/11/%E3%80%8C%E3%83%A2%E3%83%B3%E3%82%B4%E3%83%AB%E5%9B%BD%E5%AD%A6%E6%A0%A1%E7%B5%A6%E9%A3%9F%E5%B0%8E%E5%85%A5%E6%94%AF%E6%8F%B4%E3%83%97%E3%83%AD%E3%82%B8%E3%82%A7%E3%82%AF%E3%83%88%E3%80%8D%E3%81%AB/</p>			
■参加(同行)可能な行事・視察等			
<p>本邦研修（研修コース名：モンゴル国学校給食における食材調達・契約方法、研修期間：2023年2月8日～2月22日）（学校給食会や教育委員会等による講義と視察を予定。）</p>			
■受入時期・期間（併せて、調整可か不可かをプルダウンで選択してください。）			
2023年1月5日から3月31日までの約2.5ヶ月間（2週間からの受入も可とする）		フルタイム以外の活動体系の可否	
上記期間外含めて調整可	理由：本邦研修の準備・実施や精算作業を支援いただきたいため。	可	週2回、2ヶ月間程度
■希望する人材（大学生/大学院生/社会人）			
大学生・大学院生・社会人全て可			
■応募資格以外に受入れに関し求める要件（「必須」か「望ましい」かを選択し、具体的な要件を記載ください。）			
必須	Microsoft Word、Excel、Powerpoint（ビジネスレベル）		
望ましい	国際協力分野、JICA案件に携わった経験		
望ましい	語学力（モンゴル語、英語）		
■提供可能な執務環境等（該当する項目を☑としてプルダウンで選択してください。）			
<input checked="" type="checkbox"/> 執務スペース	<input checked="" type="checkbox"/> 電話等の利用	<input checked="" type="checkbox"/> PC貸出し	<input type="checkbox"/> PC自身で準備
<input type="checkbox"/> 携帯電話貸出	<input type="checkbox"/> 携帯電話通話料個人負担		
その他（提供可能な事項）：			
■滞在費（一日あたりの食費及び少額交通費）		■宿泊費	
※目安金額であり、JICA及び開発コンサルティング企業から支給されるものではありません。			
2,500円/日		7,000円/泊	
■備考・留意点			
<p>本ポストは、主に株式会社コーエイリサーチ&コンサルティング（東京）での活動を予定しておりますが、本邦研修の講義や視察実施場所（筑波センター等）で活動いただく可能性があります。宿泊が必要な方については、宿泊先を別途調整します。</p> <p>国際協力分野に関心がある方、モンゴルや学校給食に興味がある方、ご応募をお待ちしています。</p>			